



スイスの生活

13

| | | |
|------|---------------------|-----|
| 13.1 | 安全性と生活の質..... | 131 |
| 13.2 | 転居と生活適応..... | 133 |
| 13.3 | 住居の賃貸..... | 133 |
| 13.4 | 電話、インターネット、テレビ..... | 134 |
| 13.5 | 保険..... | 135 |
| 13.6 | 公共交通機関..... | 135 |
| 13.7 | レジャー..... | 135 |
| 13.8 | 収入と生活費..... | 136 |

高い生活水準と安全な環境により、スイスは世界屈指の長寿国となっています。手付かずの自然や多種多様な文化と娯楽が、多くの観光客だけでなく、高度な資格を持つ外国人就労者をも惹きつけています。スイスの1世帯当たりの平均月間勤労所得は7,000スイスフラン以上で、このうちおよそ70%が社会保障費と税金を控除した後、可処分所得として残ります。そのため比較的物価が高いにもかかわらず、スイスの購買力は世界一です。

13.1 安全性と生活の質

スイスは、非常に安全で、極めて質の高い生活を送ることができる国です。都市圏のみならず地方においても、所得、ヘルスケア、気候と地理、政治的安定、安全と保安、個人の自由、家庭生活や地域生活などの主要な基準に関して、非常に高い評価を受けています。

チューリヒ、ジュネーブ、バーゼル、ベルンは、世界的コンサルティング会社マーサーが発表している世界の都市ランキングで、長年にわたり上位を占めています。

生活の質の国際比較

(図50)

| | |
|----|------------------|
| 1 | ウィーン、オーストリア |
| 2 | チューリヒ、スイス |
| 3 | バンクーバー、カナダ |
| 3 | ミュンヘン、ドイツ |
| 3 | オークランド、ニュージーランド |
| 6 | デュッセルドルフ、ドイツ |
| 7 | フランクフルト、ドイツ |
| 8 | コペンハーゲン、デンマーク |
| 9 | ジュネーブ、スイス |
| 10 | バーゼル、スイス |
| 11 | シドニー、オーストラリア |
| 11 | アムステルダム、オランダ |
| 13 | ベルリン、ドイツ |
| 14 | ベルン、スイス |
| 16 | トロント、カナダ |
| 18 | ルクセンブルク、ルクセンブルク |
| 33 | ダブリン、アイルランド |
| 39 | パリ、フランス |
| 41 | ミラノ、イタリア |
| 41 | ロンドン、英国 |
| 44 | ニューヨーク、米国 |
| 49 | 東京、日本 |
| 71 | 香港、香港 |

出典：マーサーサーベイ、生活の質ランキング、2019年調査、2022年

あらゆる地域で常に、移動の自由と安全が保証されています。人口密集地は少なく、単調で個性の無い大規模集合住宅もほとんどありません。通常、子供は、親が付き添うことなく徒歩で通学しています。こうした安全な環境と、伝統的に慎重なスイス人の特質は、広く評価されています。世界的な著名人でも、身辺警護なしでスイス国内を移動することができるのです。

まるで磁石に引き付けられるように、スイスには、国外から優秀な人材が集まってきます。最も魅力的な国の国際比較ランキングで、スイスは、世界中の人材が集まる場所として長年に渡ってトップに立っています(図51参照)。このランキングは、国際経営開発研究所(IMD)が毎年発表しているもので、各国の優秀な人材を惹きつけ、維持する能力を比較しています。調査によると、スイスは、安定した経済や政治情勢、世界最高水準の教育制度、そして高い生産性を特徴としています。スイス人はまた、ハイレベルでグローバルな専門知識や技能を有し、質の高い生活をおくっています。

国外の優秀な人材にとって、
スイスは移住先の第一候補です。

有能な人材に対する求心力とその確保

1=企業における優先度が低い、
10=企業における優先度が高い

(図51)

| | | |
|----------|------------|-------------|
| 1 | デンマーク | 8.59 |
| 2 | オランダ | 8.24 |
| 3 | アイルランド | 8.24 |
| 4 | 日本 | 8.13 |
| 5 | スウェーデン | 8.09 |
| 6 | スイス | 8.00 |
| 10 | ルクセンブルク | 7.82 |
| 11 | ドイツ | 7.81 |
| 12 | フランス | 7.78 |
| 13 | オーストリア | 7.75 |
| 14 | オーストラリア | 7.70 |
| 19 | 米国 | 7.49 |
| 20 | カナダ | 7.49 |
| 24 | シンガポール | 7.36 |

出典：IMD世界競争力センター、2022年

13.2 転居と生活適応

現在10,000社を超える外国企業が、スイスに拠点を置き、活動しています。これらの外資系企業の多くは、外国人の幹部や専門職を駐在員として短期的にスイスに派遣しています。このような駐在員ができるだけ早くスイスでの暮らしに慣れることができるよう、転居に関する専門機関や駐在員グループがあり、そのためのパンフレットやウェブサイトが用意されています。

外国に転居する際には、個々の状況に応じて様々な疑問が生じるものです。子供はどこどの学校に通えばよいのだろうか？ 買い物はどこですればよい？ 家はどのように見つけるのだろうか？ 税金やその他の費用はどれだけかかるのだろうか？ 有能で国際経験豊富なアドバイザーが全国各地におり、これらの問題を解決し、サポートを提供します。また、リクレーション業者が、スイスに住み始めたばかりの人々を対象にした情報提供、転居に関する問題の解決等、総合的なサービスを提供しています。インターネットでも、様々な情報が閲覧できます。駐在員のために、オンラインでの情報プラットフォームを設置している州経済開発局も数多くあります。

www.ch.ch > Foreign nationals in Switzerland
スイスへの転居

13.2.1 転居

スイスに転居する場合、所有物(家庭用品、個人収集物、動物、自動車など)は、免税で持ち込むことができます。免税の適用を受けるための唯一の条件は、持ち込む物がスイス国外で6か月以上自らが使用したものであり、持ち込み後も自らが使用することです。スイス入国にあたり、所有物を持ち込むためのリストに加え、入国地の税関で雇用契約書、賃貸借契約書、または出国元の国から発行された登録抹消証明書類(EU-25/EFTA加盟国の国民用)を、提出しなければなりません。スイス入国後は、居住する市町村で14日以内に登録を行う義務があります。住民登録に必要な書類は以下の通りです。

- パスポートやIDカードなど、有効な公的身分証明書類(入国する家族全員)
- 健康保険加入証明書(強制加入の基礎保険の証明)：スイスの健康保険基金登録は3か月かかるため、健康保険加入証明書は後日提出することも可能です。
- パスポート用写真1枚(入国する家族全員、各自用意)
- 配偶関係を確認できる書類(出生届や婚姻届の抜粋証明書、婚姻証明書、子供の出生証明書など)
- 雇用契約書

スイスに自動車を持ち込む場合、12か月以内に車検を申請し、保険に加入したうえで、登録を済ませなければなりません。また、スイスで有効な運転免許への切り替えも12か月以内に行う必要があります。

www.ezv.admin.ch > Information individuals > Personal property, students, holiday homes, getting married and inheritance > Importation into Switzerland
個人の所有物に関する申請書

13.2.2 語学講座

多くのスイス国民は、英語や母語以外のスイスの公用語を理解することができます。しかしながら、スイス社会に溶け込むには、その地域の公用語の知識が大いに役立ちます。公用語はドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語であり、使われる言語は地域によって異なります。公用語が4つあるとはいっても、スイス国民の全員がすべての公用語を操れるわけではありません。

多数の民間企業や個人が、様々なニーズに合わせた語学講座を開講しています。公的機関でも各公用語の語学講座を提供しており、一部は移民の社会統合政策の一環として実施されている語学講座も存在します。スイス連邦の講座に関するウェブサイトをぜひご利用ください。

www.alice.ch > Dienstleistungen > Kurse > Kurse finden
Swiss Federation for Adult Learning

13.3 住居の賃貸

魅力的な賃貸物件がある場合は、広告主(専門の不動産管理会社であることが多い)に連絡し、物件の見学を予約します。物件が希望に沿う場合には、一般的に申込書への記入を行います。申込書には、年齢、配偶者の有無、職業、子供の有無、在留資格、雇用主、給与、ペットの有無などの項目が含まれています。多くの場合、申込者は、家賃の支払能力を証明するための債権執行記録証明書の提出を求められます。この証明書は、各地の債権執行局で取得できます。

13.3.1 敷金と賃貸契約

賃借人は、敷金として、ある一定の金額を事前に支払わなければなりません。敷金は3か月分の家賃相当額となることもあり、賃借人名で特別銀行口座(賃貸口座)に預金されます。この預金が、貸主に対する保証金となります。敷金は、退去後に利息と共に賃借人に返金されます。

賃借人には、清潔で、機能的な物件に入居する権利があります。物件の正式な引き渡しは、新たな賃借人が入居する前に行われます。賃借人と貸主と一緒に物件の状態をチェックして、不具合を書面に記録します。

通常、賃借人は翌月分の家賃を毎月支払います。賃借人は、多くの場合、家賃に加えて暖房、給湯、ケーブルテレビなどの料金を負担します。住居内で消費した電力の料金については、電力会社から、毎月あるいは四半期ごとに、賃借人に対して請求書が送られてきます。電話やインターネット接続(しばしばケーブルテレビも)サービスのプロバイダーは数多くあるため、賃借人は個別に契約し、プロバイダーに料金を直接支払います。

スイスでは、固定電話や携帯電話、IP電話、インターネットサービスのプロバイダーが数多くあり、選択肢が豊富です。

貸主が家賃を値上げしたい場合には(例えば改装後や住宅ローン金利の上昇などを理由に)、正式な書式を用いなければなりません。家賃の値上げが不当だと考える賃借人は、30日以内に仲裁機関に書式で申し立てを行います。

賃借人、貸主のいずれも、賃貸借契約を終了させることができます。必要な通知期間は契約書に記載されています。賃借人が契約終了を通知する場合には、書面、できれば書留郵便によって行う必要があります。賃借人が既婚者の場合、夫婦は同等の権利を持ちます。したがって、夫婦の両方が署名していなければ契約終了通知は無効です。退去する場合には、賃借人はきれいな状態で物件を引き渡さなければなりません。賃借人と貸主と一緒に物件の状態をチェックして、不具合を書面に記録します。必要な修繕費をどちらが負担するかは、両者が協議して決めることになります。

13.3.2 居住規則と管理

ほとんどの場合、専門の不動産管理会社が建物を管理する責任を負っています。特に大規模な建物の場合には、建物の管理人が置かれ、賃借人の質問に答えたり、簡単な修繕を行ったり、セキュリティを監視し、維持管理を行っています。各地域の借家人協会も、問題の解決を支援します。

www.bwo.admin.ch > Wie wir wohnen > Infoblatt «Wohnen in der Schweiz»
賃借の際に知っておくべき情報

借家人協会
ドイツ語圏 : www.mieterverband.ch

フランス語圏 : www.asloca.ch

ティチーノ州 : www.asi-infoalloggio.ch

13.4 電話、インターネット、テレビ

スイスの電気通信市場は、1998年に自由化されるまでスイスコムが独占していました。現在は、多数の固定・携帯電話、IP電話、インターネットサービスのプロバイダーから選択することが可能です。携帯電話の主要キャリアは、スイスコム、ソルト、サンライズの3社です。他にも、これら大手キャリアのネットワークを利用して、魅力的な条件でサービスを提供している業者もあります (M-Budget Mobile, Coop Mobile, yallo, TalkTalkなど)。スイスに一時的に滞在している外国人も、すべてのサービスを利用できます。ただ、その際には、登録が義務付けられています(プリペイド式の場合も含む)。インターネットの接続設定は簡単です。

テレビ放送の分野では、Sunrise UPCとSwisscomが市場をリードしています。Sunrise UPCのケーブルテレビ回線では、80局を超えるチャンネルを視聴できます。デジタル放送を受信するには、デジタル放送対応テレビが必要です。Swisscomの「blue TV」では、電話回線を通じて330局以上のチャンネルを視聴することが可能です。300社を超える地域ケーブルテレビ事業者が、Sunrise UPCと同様のサービスを提供しています。もちろん、衛星放送も受信可能です。スイスでラジオを聴いたりテレビを視聴する場合には、必ず受信料を支払わなければなりません。この受信料は、視聴している番組や受信方法にかかわらず、一律で徴収されます。ラジオやテレビの受信料の請求、徴収はSerafe AGが行っています。

www.local.ch
電話番号案内

www.comparis.ch
プロバイダーと料金の比較

www.teltarif.ch
プロバイダーと料金の比較

www.serafe.ch
Serafe : Schweizerische Empfangsstelle für Radio- und Fernsehempfangsgebührenの略。スイスラジオ・テレビ受信料受領代行会社)

13.5 保険

スイス国民は総合保険に加入しています。スイスの家庭では、家計の平均19%を保険料に支出しています。保険料が最も高額なのは、医療保険です。

医療保険、火災保険(不動産所有者の場合)と同様に、社会保険と失業保険も加入が義務付けられている保険です。社会保険料と失業保険料は政府が定め、給与から直接差し引かれます。医療保険、損害賠償保険は、各自が保険会社を選択し、個人で加入することが可能です。

住居を借りる場合は、家財保険および個人賠償責任保険に加入する必要があります(個別に、または組み合わせて加入できます)。家財保険は、浴槽からの水漏れによる床の損傷などを補償します。個人賠償責任保険は、被保険者が第三者に与えた損害を補償します(物的損害や人身傷害)。

自動車の所有者には、自動車損害賠償責任保険への加入が求められます。これは、事故の際に当該自動車を誰が運転しているかにかかわらず、保険の対象である自動車の運転に起因する人身傷害や物的損害を補償するものです。また、包括タイプや完全補償タイプの車両保険への加入も推奨されています。

13.6 公共交通機関

多彩な公共交通機関のおかげで、スイスの人々は、自家用車がなくても便利に移動することができます。鉄道、バス、船の交通網が非常に発達しており、世界屈指の交通密度の高さを誇ります。船は観光目的だけでなく、重要な輸送手段としても運航されています。スイスでは、どんな村であっても公共交通機関のダイヤが2時間以上間隔をあけることはありません。

公共交通機関には、様々なチケットやパスが用意されています。基本的には次のような仕組みになっています：有効期間が長いほど割安になります。すべての公共交通機関を対象とする1年パス「General-Abo」があれば、SBB(スイス連邦鉄道)、ほとんどの私鉄、船、バス、都市交通を利用することができます。低価格の「Halbtax-Abo」は1年、2年、3年の期間があり、SBBと多くの私鉄、山岳鉄道の運賃が、半額になります。6才までの子供は、公共交通機関の運賃が無料です。16才未満の子供は「Junior-Karte」を購入し両親と一緒に利用する場合、「Enkel-Karte」を持って祖父母と一緒に利用する場合には、無料で公共交通機関を利用できます。16才から25才までの若者は「Seven25」パスで午後7時以降、無料で2等車に乗ることができます。これらの特別料金はスイス居住者向けですが、観光客向けの特別料金もあります。

www.sbb.ch
スイス連邦鉄道SBB：時刻表、チケット

www.swisstravelsystem.com
外国人のためのスイス観光案内

13.7 レジャー

13.7.1 娯楽と文化プログラム

スイスでは、多彩な文化や娯楽活動が楽しめます。自然愛好家、スポーツファン、平和で静かな場所を求める人、芸術愛好家、ビジネス旅行者にとって、スイスは、四季を通じて、理想的な目的地となっています。スイスでは、それぞれの人に合った本当の意味でのリラクゼーションと忘れられない体験を味わうことができます。観光客もスイスに住む人も、自らの嗜好に合った過ごし方を見つけることができます。サマースポーツもウィンタースポーツも身近に楽しむことができ、魅力的な市場が立つ町もあれば、活気溢れる都市もあり、常に文化と自然に恵まれ、リラックスすることも、アクティブに行動することもできます。人口を分散させる宅地開発のおかげで、都市でも地方でも文化活動やスポーツ、社会活動に参加する機会は数多くあります。スイスでは、ルツェルン音楽祭やモントルー・ジャズ・フェスティバル、グシュタートのメニューイン音楽祭、さらにロカルノ映画祭、アート・バーゼル、またクラン・モンタナで行われるゴルフのオメガ・ヨーロッパ・マスターズやバーゼルのスイス・インドア(テニス)、チューリヒで開催される陸上競技大会のヴェルトクラッセチューリヒなど、有名なイベントが開催されています。こうした大規模なイベントに加え、地方のカルチャーシーズンも活発です。

スイスには1,000を超える美術館や博物館があり、その充実度は世界最高レベルです。多数の歌劇場、有名な劇場、舞台では、アマチュア演劇から国際的なアーティストによるパフォーマンスまで、バラエティに富んだ演目が上演されています。800か所以上の図書館が一般開放されています。国内10か所にある大型図書館では、5,500万点以上を所蔵しています。

アウトドア派には、19か所ある自然保護区や、65,000kmにおよぶハイキング・トレッキングコースがお勧めです。国家的に重要な自然保護区は、スイスの国土面積の約23%を占めています。さらに、13もあるユネスコ世界文化遺産も見逃せません。その世界遺産とは、アルプス山脈周辺の先史時代の杭上住居群、ラヴォーのブドウ段々畑、ベルンツォーナ旧市街の3つの城、ザンクトガレンのベネディクト会修道院、ベルン旧市街です。

また、スイスでは、スポーツも非常に盛んです。小さな町や村にも、サッカークラブや体操クラブがあります。国内には、32,000か所以上のスポーツ施設や全天候型グラウンドがあります。その中には4,000か所の体育館、3,500か所の全天候型競技場が含まれています。トップスポーツに目を向けると、スイスは、何と言ってもウィンタースポーツの国です。例えば、スイスは冬季オリンピックで常にメダル獲得数上位10か国に入っています。ウィンタースポーツ以外では、テニスが特筆すべきスポーツです。ロジャー・フェデラーやスタニスラス・ワウリンカといったプレーヤーが名声を築いています。そのため、テニスの人気が非常に高く、アマチュア選手も活躍しています。

www.myswitzerland.com

スイス政府観光局、イベントカレンダーなど

www.swissworld.org > Society > Traditions

スイスの伝統や風習

13.7.2 クラブ活動とボランティア活動

スイスでは、多くの市民が余暇を利用してクラブ活動に積極的に参加し、趣味を楽しんでいます。小さな市町村も文化活動やクラブ活動を積極的に支援しており、インフラ設備も整備されています。音楽、演劇、スポーツ、政治から、ハイキングや自然保護に至るまで、クラブが存在しない分野はないと言っていいほどです。多くの場合、趣味とボランティア活動の間に、はっきりとした境界線はありません。スイスでは、人口のおよそ5分の1が組織化されている無償のボランティア活動に参加しています。スイスではクラブや団体の登録が義務付けられていないため、すべてを網羅するリストはありません。しかし、各市町村のホームページには、現地のクラブに関する情報が掲載されています。

www.benevol.ch

ボランティア

www.ch.ch > Safety and justice > Addresses of administrative authorities

各行政機関の所在地

13.8 収入と生活費

スイスの1世帯の平均人数は2.11人で、月間就労所得は7,036スイフランです。給与以外の所得や移転所得を合わせると、総所得は9,582スイフランになります(2019年時点)。社会保障費と税金を控除すると、約70%が可処分所得として残ります。

実質可処分所得(強制徴収税額および固定費を控除後)は、地域によって大きな開きがあります。クレディ・スイスは、RDI指標(地域処分所得)を用いて、重要な要素をもとに、スイスの州および市町村の金融面での居住の魅力を評価しています。ビジネスの中心地とごく一部の山岳地域では、実質可処分所得(RDI)が、全国平均を下回っています(低RDI値)。これらの地域は観光地として人気があり、不動産価格が高騰しています。アッペンツェル・インナーローデン、ウーリ、グラールス、シャフハウゼンなどの州は、魅力的な立地であるとともに、実質可処分所得が高い(高RDI値)のに対し、バーゼル、ベルン、ジュネーブ、ローザンヌ、チューリヒといった大都市は、正反対の数値を示しています。

www.bfs.admin.ch > Look for statistics > Economic and social situation of the population > Income, consumption and wealth
所得、消費、資産に関する統計

www.credit-suisse.com

お得に暮らすなら? スイスで最も多くの収入を手にできる場所。

平均的な家計

(単位：スイスフラン)

(図52)

| | | |
|-------------------------|---------------|---------------|
| 総所得(勤労所得、移転所得など) | 9,582 | 100.0% |
| 強制的移転支出 | -2,800 | -29.2% |
| 社会保険料 | -950 | -9.9% |
| 税金： | -1,180 | -12.3% |
| 健康保険 基礎保険料 | -670 | -7.0% |
| 他の世帯への 金銭的移転支出 | -173 | -1.8% |
| 可処分所得 | 6,609 | 69.0% |
| その他の保険、手数料、移転支出 | -579 | -6.0% |
| 消費支出 | -4,985 | -52.0% |
| 食品、非アルコール飲料 | -637 | -6.6% |
| アルコール飲料、たばこ | -95 | -1.0% |
| レストラン、宿泊施設 | -558 | -5.8% |
| 衣類、靴 | -175 | -1.8% |
| 生活費、エネルギー | -1,381 | -14.4% |
| 家具・備品、家計費 | -210 | -2.2% |
| 医療費 | -245 | -2.6% |
| 交通費 | -710 | -7.4% |
| 通信費 | -174 | -1.8% |
| 娯楽、レクリエーション、文化 | -510 | -5.3% |
| その他の物品・サービス | -291 | -3.0% |
| 一時所得 | 187 | 2.0% |
| 貯蓄 | 1,232 | 12.9% |
| 1世帯あたり人数(平均) | 2,11 | |

出典：スイス連邦統計局(BFS)、2022年